

ひばりのへいたいや、おまわりさんまでが、くりだしてきて、「きいきい、ぴいぴい」と、さけびながら、にげまわるおしゃべりひめを、おっかけまわしました。そのおそろしいこと。おしゃべりひめは、もうむちゅうになって、なきながら、にげまわっていましたが、やがて、くさのなかにあった、ふかいいどのなかへ、まっさかさまにおちて、そのまま、ずんずんどこまでも、おちていきました。ひめは、またびっくりして、「あれー、たすけて」と、さけびまし

たが、あまりのおそろしさに、
めをまわしてしまいました。け
れどもまもなく、またきがつい
てみますと、こんどは、いつ、
つれてこられたのか、りっぱな
ねどこのうえに、ねかされて、
あたまのしたには、やわかいま
くらが、おいてあります。どう
したのかしらんと、おもって、
そこいらをみまわしますと、ま
た、びっくりしました。まくら
もとには、にんげんのおおきさ
くらいの、あおがえるのかんご
ふが、ふたり、こがねいろのめ
をひからせて、しろいのをひ

くひくさせながら、こしをかけています。あおがえるのかんごふは、おしゃべりひめが、めをさましたのをみると、すぐにたちあがって、「きゃっ、きゃ」とよびました。すると